

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 22 日現在

機関番号：18001

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25370783

研究課題名(和文) 球陽外巻『遺老説伝』の総合的研究

研究課題名(英文) A Multiple Study on Irosetsuden: An Eighteenth-Century Ryukyuan Compilation of Tales and the History of the Book

研究代表者

前村 佳幸 (MAEMURA, Yoshiyuki)

琉球大学・教育学部・准教授

研究者番号：10452955

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、18世紀前半に成立した琉球史書『球陽』の外巻とされる説話集『遺老説伝』について、現存する諸本の料紙に対する物質的調査を行いつつ、本文の校訂や内容の研究を並行して進めることにより、その史料としての特徴を多面的に明らかにするものである。そのために、伊波普猷文庫 14と宮良殿内文庫 26を修復した際に得られた試料(紙片)や資料(袋綴じ本文の内部に綴じられていた新聞紙、裏表紙の芯に使われていた反古紙)を分析し、料紙や装幀について所見を得た。さらに、尚家文書 1251を底本として全文の校訂を行い、史話史伝という観点から宮古島の旧記との比較検討を行うなどテキストの変容面についても明らかにした。

研究成果の概要(英文)：Irosetsuden, a book written in classical Chinese, is a separate volume of Kyuyo that is a comprehensive and chronicled history of Ryukyu. The two books were edited by the middle of the 18th century. This study has three parts. Part one investigated samples of used papers, old newspapers, and documents obtained from the Irosetsuden book in Iha Fuyu collection No. 14 and Miyaradunchi collection No. 26 to examine plants as materials and features of book binding. Results introduce an objective approach to study Ryukyuan historical materials. Part two collated and emended Syo-ke document No. 1251 by comparing with other texts. Part three examined Irosetsuden's content by focusing on tales regarding the historical events or people of ancient Ryukyu. Results suggest that these historical tales include subjects of virtue or ethics expected of people by the ruler of the 18th century. This finding is important to understand this book on the context and historical significance.

研究分野：歴史学

 キーワード：近世琉球の典籍と料紙 球陽外巻 遺老説伝 尚家本『遺老説伝』の校訂 伊波普猷文庫典籍の修復
 線装本と新聞紙 遺老説伝と久米島 遺老説伝と宮古島

1. 研究開始当初の背景

琉球の古文書・古典籍については、明勅諭（国指定重要文化財）や尚家文書（国宝）などに対する調査・整理と保存処置が行われてきた。その複製を利用することにより、内容面については十分把握することができる。ただし、これらの資料に対する書写材料（料紙）の観点からの位置づけについては、調査員による所感によるところが多く、繊維化学的な領域では、もっぱら製紙業界出身の専門家に委託されており、人文学の研究者が直接関与することはなかった。他方において、日本の古文書研究の分野においては、中世を中心に歴史学の研究者自身が計測や顕微鏡観察などを行い、「文書料紙調査票」に基づいた精緻な料紙研究が展開している。

古文書・古典籍は一旦修復してしまうと最新の技法をもってしても厚さや密度などが変化し、原状を調査することは極めて困難となる。したがって、料紙調査は修復の前に実施しなければならないし、折り畳まれていた紙が伸ばされたり冊子が分解されたりする修復の機会を利用すれば、微細な紙片を検出する可能性が高く、より多くの成果が期待できる。しかしながら、その意義が沖縄県内の関係者に十分浸透していなければ、琉球の古文書・古典籍をめぐる料紙研究はたまたま委託されたごく一部の資料に限定されてしまうことも考えられる。近年、貴重な資料のデジタルアーカイブ化が著しく進展し、ウェブ上での閲覧・複写も容易になってきている。しかしながら、実物を調査しなければ、その料紙に対する客観的な所見を得ることはできない。手漉きの料紙は原料植物や填料、そして用具と技法によって多様な特色を有するものであり、その用途やテキストの内容と関連づけながら把握することにより、当時の政治・社会・文化の様相を窺うこともまた可能であると考えられる。

以上のような状況に鑑みたとき、手漉き紙の製法を学びつつ、劣化度調査、修復作業委託、そして修復と連動した料紙の計測調査及び試料分析などからなる料紙研究の手法を導入することにより、近世琉球の史料論について新たな領域を切り開くことが期待される。なお、研究対象とする資料は、もとより文献史料としての価値を有するのであるから、装幀や諸本そして内容面にも着目して総合的に行われるべきである。

2. 研究の目的

(1) 近世琉球の古典籍について、早急に修復を要する資料を選択し、研究協力者の支援を受けながら料紙研究を行い、原料・紙質や装幀などに関する知見を得る。

(2) 当該古典籍の史料としての価値を明らかにするために、書誌学的調査とテキスト校訂を行い、さらに内容面の歴史的意義について検討し、史料論的研究を総合的に推進する。

(3) 文書・典籍資料の修復と連動した料紙

調査の重要性について理解を促すことに資する具体的な事例を得る。

3. 研究の方法

以下の三つの側面から並行して総合的に進める。

第一は料紙研究である。近世琉球の古文書・古典籍に使用されている紙（料紙）について、寸法・密度、厚さを計測し、小型のマイクロスコップ（倍率 100）を料紙表面に当てて原料植物や繊維・非繊維物質の状態などを観察する。この所見は、「文書料紙調査票」を利用して記録する。これは富田正弘（研究代表）のグループによる、1992～1994年の科学研究費補助金（総合研究A）『古文書料紙原本にみる材質の地域的特質時代的変遷に関する基礎的研究』の成果として作成されたものである。これに加え、調査時にはできるだけ画像データの取得をはかる。マイクロスコップに接続したCCDカメラにより料紙表面を撮影するが、解像度が低いので、ごく微細でも紙片を検出することができれば、それをC染色液で処理して生物顕微鏡で観察することが望ましい。その際に撮影したデジタル画像データは、客観的な検証材料となる。なお、染色した試料は保存できないので、未染色の試料も同時に作成する。

紙料研究の対象としては、伊波普猷旧蔵『遺老説伝』（琉球大学附属図書館蔵）四冊本を選択する。この資料は本紙の内部に新聞紙が綴じ込まれており、酸性度を高くする要素が確認され、早急に対処すべき状態である。そこで、その修復の機会を利用して料紙を計測・観察するとともに、紙片などが採取できた場合、画像データを分析し原料植物等を判定する。また、補強に使用されたとみられる新聞紙についても、装幀を解いてみないと詳細が分からないので、脱酸処理などによる実物の保存と写真撮影による複製確保をはかる。修復作業は専門者に委託し、試料の処理と分析については、研究協力者の指導を受ける。料紙と新聞紙の検討により、本資料が筆写・装幀された時期を検討するだけでなく、近世琉球の典籍に新たな情報を加え、史料に関する認識を深める。

第二は、近年参照できるようになった那覇市歴史博物館蔵「琉球国王尚家関係資料」における『遺老説伝』（尚家本）を底本として諸本と校合し、校訂テキストを作成することである。修復対象の伊波普猷文庫本『遺老説伝』も校本として位置づけられる。その校注作業は文献学的な尚家本の特徴を明らかにするものとなる。並行して書き下し文も作成するが、その際には『琉球国由来記』『琉球国日記』における同内容の記事を参照し、読解を深める。

第三は、編年体の通史である『球陽』の外巻とされた『遺老説伝』の本文内容に即して、古琉球を主題とした説話の近世における意義を考察することである。これまでの研究観

点では、説話を古琉球的なあり方を色濃く残すもの、あるいは伝えるものとして取り扱われてきた面があるが、本研究においては、その説話を編纂した側の論理に着目することにより、『遺老説伝』の史料的な価値や特徴を明らかにしていく。

4. 研究成果

料紙に対する研究については、伊波普猷文庫 14(四冊本)の調査により、古新聞紙が全丁にわたって綴じられており、今後の保存に悪影響を及ぼす要素となっていることが判明した。そのため、修復作業を専門者に委託するとともに、研究協力者の支援を受け、分解された用紙全ての計測を行った。その際に微小な紙片を得ることができたので、高知県立紙産業技術センターにて分析したところ、本紙が竹紙であると判明し、想定より古い写本であると推測される。その所見は、装幀やその他の伊波普猷文庫資料からの調査情報と併せ、当該資料と伊波普猷との関係を中心に明らかにした「伊波普猷文庫『遺老説伝』四冊本の装幀と料紙について」で示した。

また、摘出された古新聞紙についても、貴重な資料と位置づけられるので、保存処理した上で画像をデジタル化した。その上で新聞社や発行時期を整理し、論文「伊波普猷文庫『遺老説伝』四冊本から摘出された新聞紙について」で示した。この論文では、資料的価値が高いと判断した九州限定の地域版の画像も掲載している。これらの新聞紙は全て全国紙であり、戦災などで失われた県内紙はなかったが、大正期の沖縄在住の伊波普猷の新聞購読に関する選択、あるいは新聞紙で補強して装幀するような、当時の人々の伝世の書籍に対する扱いを示す事例として位置づけられる。

なお、琉球大学附属図書館蔵宮良殿内文庫 26『遺老説伝』一冊本については、全体の保存状態は良好であり、当初修復対象としていなかったが、綴じが緩んでおり、専門者に修理してもらった。その際に表紙から試料と反古紙を検出し、前者について機器による調査を行うことができた。その分析結果は今後発表する予定である。

テキスト面では、尚家文書 1251『球陽遺老説伝』一冊本を底本として、全文の校訂を行い、書き下しを附して研究成果報告書として印刷した。戦前、横山重により、尚侯爵家の「御側御物本」を底本とした『琉球国由来記』『琉球国旧記』が琉球史料叢書として刊行されているが、その際に『球陽』と『遺老説伝』の校訂は実現しなかった。これまで、護得久本を底本とした嘉手納宗徳『球陽外巻遺老説伝 原文・読み下し』(角川書店、1978年)が定本として広く参照されてきた。護得久本には欠落した項目も多く、その料紙は楮と藁の混合紙とみられる。現行の尚家文書 1251は外観から「御側御物本」そのものではないように思われるが、マイクロスコープ

による観察では、その料紙は竹紙と推測され、内容面の欠落も比較的少ないので、これを底本として校訂を行ったことには意義がある。これにより、全文の現代語訳やさらなる説話内容の研究に取り組むための基盤を確立することができた。

本文の内容面では、二篇の論文「『遺老説伝』における史話と史伝」及び「『遺老説伝』と慶世村恒任『宮古史伝』における類似説話」において、古琉球的な内容あるいは地域政権を有した久米島や宮古島の位置づけについて検討し、宮古島旧記という地方役人の提出した材料を取捨選択し漢文化した編纂者の意図をさぐった。後者においては、先行研究が指摘するような、中央本位の正史『球陽』とは別に宮古島の歴史が特別に整序・叙述されているのではなく、内容は多くとも史話史伝として断片化されており、むしろ別の意図が込められていることを旧記に加えて『球陽』や『宮古嶋記事仕次』などとの対比により明らかにした。これらの成果には、近世琉球の為政者が民衆に対して発したイデオロギーと『遺老説伝』のような公式に編纂された説話との関係について、各種史料を参照しながら究明することへの展望を開いたという点で重要性がある。

また、研究の目的(3)と関連し、2015年12月17日に沖縄県公文書館にて、文書・古典籍の修復保存業務の関係者を対象として研究協力者の大川昭典氏による講演会を行い、和紙の様々な側面について認識を深める機会をもった。高知県立紙産業技術センターでは、試料の扱いだけでなく、和紙の原料・製法や用具についても教示を受け、料紙研究の方向性を見定めることができた。

さらに本研究においては、修復を前提とした資料以外に、那覇市歴史博物館所蔵の尚家本『球陽』2部と家譜、沖縄県立博物館・美術館蔵『中山世譜』および沖縄県立図書館の護得久本『球陽』『遺老説伝』などの実物を調査し、近世琉球の典籍における料紙の傾向を把握することができた。近世琉球では、中国産の竹紙に加え地元で抄造された楮紙や青雁皮紙なども利用されており、原料と紙質そして用途との関連について、今後も調査を継続し、料紙的観点からの史料論体系化のためにデータの蓄積をはかる必要がある。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計4件)

前村 佳幸「『遺老説伝』と慶世村恒任『宮古史伝』における類似説話」(『琉球大学教育学部紀要』査読無、第89集、1-13頁、2016年)

<http://hdl.handle.net/20.500.12000/3550>

前村 佳幸「『遺老説伝』における史話と史伝」(『琉球大学教育学部紀要』査読無、第87集、1-14頁、2015年)
http://hdl.handle.net/20.500.12000/32646

前村 佳幸、小島 浩之「伊波普猷文庫『遺老説伝』四冊本の装幀と料紙について」(『東京大学経済学部資料室年報』、査読無、第5号、76-84頁、2015年)
http://repository.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/dspace/bitstream/2261/72574/1/kzsnp5-08.pdf

前村 佳幸「伊波普猷文庫『遺老説伝』四冊本から摘出された新聞紙について」(『琉球大学教育学部紀要』、査読無、第85集、25-38頁、2014年)
http://hdl.handle.net/20.500.12000/31980

〔学会発表〕(計 0 件)

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕(計 1 件)

前村 佳幸「研究成果報告書 球陽外巻『遺老説伝』の総合的研究 本文篇」(2017年3月)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

前村 佳幸(MAEMURA, Yoshiyuki)

琉球大学・教育学部・准教授

研究者番号：10452955

(2) 研究分担者
なし ()
研究者番号：

(3) 連携研究者
なし ()
研究者番号：

(4) 研究協力者
大川昭典 (OHKAWA, Akinori)
元高知県立紙産業技術センター技術第2部長

柳原敏昭 (YANAGIHARA, Toshiaki)
東北大学大学院・文学研究科・教授
研究者番号：30230270

小島浩之 (KOJIMA, Hiroyuki)
東京大学大学院・経済学研究科・講師
研究者番号：70334224